

児童の自己肯定感を育む学級経営の在り方に関する実践的研究  
～日常における言葉かけと自他尊重を大切に活動に焦点を当てて～

十島村立平島小学校 教諭 堀之内 利成

目 次

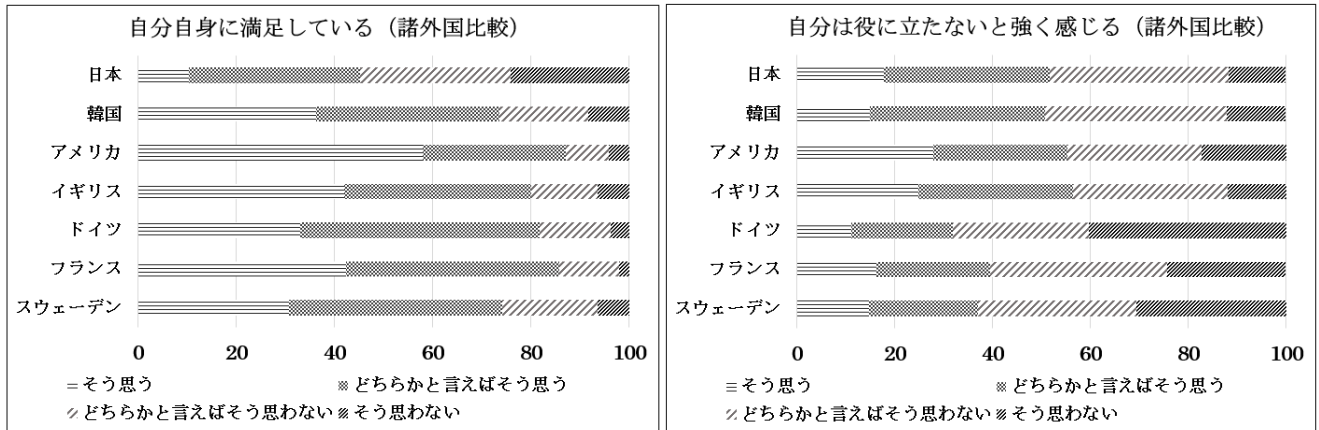
1	研究主題	1
2	はじめに	1
	(1) 今日的教育課題と社会的要請・教育の動向から	
	(2) 「自己肯定感」とは	
	(3) 本校・本学級の児童の実態から	
	(4) 本校の研究との関連から	
	(5) 研究のねらいと仮説	
	(6) 研究構想図	
3	研究の実際	5
	(1) 【仮説①】の検証	
	(2) 【仮説②】の検証	
	(3) 【仮説③】の検証	
4	研究のまとめ	9
	(1) 研究の成果	
	(2) 今後の課題	
5	おわりに	10
○	参考・引用文献	10

## 1 研究主題

# 児童の自己肯定感を育む学級経営の在り方に関する実践的研究 ～日常における言葉かけと自他尊重を大切にした活動に焦点を当てて～

## 2 はじめに

### (1) 今日の教育課題と社会的要請・教育の動向から



〔資料1 自分自身に満足している (諸外国比較)] 〔資料2 自分は役に立たないと感じる (諸外国比較)]

資料1及び資料2は、内閣府が発行している『子供・若者白書』の令和元年度版に記載されているものである。この中の、自己肯定感に関わる質問項目において、諸外国と比較した結果を見ると、日本は諸外国と比べて、自分自身に満足していると感じている者の割合が最も低いことが明らかである。また、自分は役に立たないと感じている者の割合も5割程度存在していることが現状である。平成25年度に実施された調査結果と比べると、自分自身に満足していたり、自分には長所があると感じていたりする者の割合が低下しているという結果となっている。児童生徒における自己肯定感に関する課題や必要性については、これまで多岐にわたって言われ続けている喫緊の課題である。また、『令和3年度全国学力・学習状況調査 報告書 質問紙調査』(令和3年8月 文部科学省)を見ると、「自分には、よいところがあると思う」の質問に対して、「当てはまる」と回答している子供の割合は36.2%であり、平成31年度の結果と比べると2%減少している結果となっている。さらに、「将来の夢や希望を持っていますか」の質問に対して「当てはまる」と回答している子供の割合は60%であり、調査開始年度と比べると減少傾向にあると述べられている。

こうした状況の中、平成29年度に新しい小学校学習指導要領、中学校学習指導要領が公示され、小学校は令和2年度より、中学校は今年度より新学習指導要領が全面実施を迎えた。新学習指導要領の前文には、「教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」と記されている。つまり、新学習指導要領に基づいた学校教育を進めるにあたって、自己肯定感を育むことは重要であるということが明らかである。令和3年1月26日に出席した中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現(答申)～』において、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るために、ICT環境を活用するとともに、「個に応じた指導」や「協働的な学び」を充実していくことが重要であると明記されている。令和の日本型学校教育の構築を目指すためにも、子供たちの自己肯定感を育むことによって、自分のよさや可能性を認識できるとともに、意欲をもち何事にも目標に向かって前向きに取り組む、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながるのではないかと考える。

## (2) 「自己肯定感」とは

### ア 本研究における「自己肯定感」の定義について

自己肯定感を育むことが重要視されていることから、用語としての「自己肯定感」は教育学だけに留まらず、心理学など多くの分野で頻繁に用いられている。そのため、様々な定義づけや分析がされており、統一的な定義がされていないのが実情である。これによく似た言葉として、「自尊感情」や「自己効力感」、「自己有用感」などが存在するが、これらの用語の共通点や違いについても整理されているとは言い難い。先行研究や教育書等を概観すると、例えば、『セルフエスティームの心理学 自己価値の追求』では、「大まかに言うと、『自己評価』ないし『自尊感情』」（遠藤 1992）と記してある。『実用日本語表現辞典』では、「自分のあり方を積極的に評価できる感情」「自らの価値や存在意義を肯定できる感情」と記している。高垣(2004)は、自己肯定感を「自分自身の在り方を肯定する気持ちであり、自分のことを好きであるという気持ち」と捉えている。W. James(1890)やM. Rosenberg(1965)は、自己肯定感を「自己評価の感情」と捉えている。『生徒指導リーフ Leaf18』（国立教育政策研究所）には、自己に関する肯定的な評価であるとし、「自分自身に満足している」「自分にはよいところがある」と記している。鹿児島県教育委員会が発行している、令和2年度版人権教育指導資料『仲間づくり～自尊感情を育むために～』には、「自己を肯定的に捉える感覚」と記されている。本研究では、様々な先行研究や教育書等で用いられている「自己肯定感」の定義を整理し、再検討することが目的ではないことから、定義に関する検討は行わないが、上記のような定義を踏まえると、「自己肯定感」とは「自己のあり方や存在価値を肯定的に評価し、肯定的に捉えること」と捉えることができるのではないかと考える。そこで本研究では、「自己肯定感」を以下のように定義づける。

本研究における「自己肯定感」の定義  
自分のあり方を積極的に評価でき、自らの価値や存在意義を肯定する感情

### イ 「自己肯定感」を育むにあたって

自己肯定感に関する先行研究を概観すると、「自己から見た自分の姿」を振り返りながら一方的に評価するという単一的なものではなく、「他者から見た自分の姿」を含めた双方向から振り返りができるように指導する必要があるとされている。そのため本研究では、自己肯定感を育てていくために「自己から見た自分の姿」と「他者から見た自分の姿」の2つの視点から指導を行っていく。また、自己肯定感を育むにあたって、A. H. Maslow(1943)の欲求階層説から考えていく必要がある(図1)。

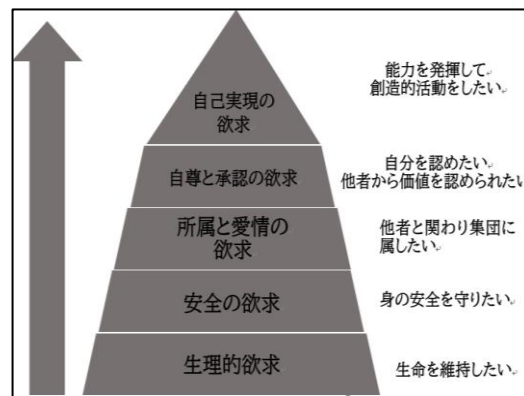


図1 A. H. Maslow の欲求階層説 (自作)

A. H. Maslow(1943)は、「人間の欲求は、下位の欲求が満たされた時に、上位の欲求を満たそうとする」と述べている。言い換えると、段階的に欲求を満たしていくことが根幹にあると言えよう。A. H. Maslow(1943)の欲求階層説の中で自己肯定感に関わる欲求は、「自尊と承認の欲求」であると考えられる。つまり、自己肯定感に関わる欲求だと考えられる「自尊と承認の欲求」を満たすためには、下位の「所属と愛情の欲求」を満たすことが前提となると考える。そのためには、まず子供たちは学校や学級、家庭において居場所があり、所属感を自覚する必要がある。そのことによって、子供たちの自己肯定感は育まれると考える。そこで本研究では、子供たちの自己肯定感を育むために、振り返りを通じた自己評価における自己を認める活動と周りの人から認められる活動を取り入れていく。多くの授業実践の中で、これらを道徳科や学級活動における授業実践の中で取り組むことはあるが、本研究では各教科における授業、朝の会や帰りの会など、教育活動全体の中で実践しながら検討していくこととする。

### (3) 本校・本学級の児童の実態から

本校の児童生徒は19名であり、Iターン家族や山海留学生、教職員の子供から構成されている。本年度実施した「学校楽しいーと」の結果を概観すると、本校では、「自己肯定感の向上」が課題としてあげられる。そのため、今年度の一校一改善事項を、「個をつかみ、認め、伸ばす指導の推進」と設定し、全校体制で「自己肯定感の向上」に向けて取り組んでいる。また、人権教育の一環として、全校児童生徒から対象となった児童生徒に対して、「あなたの良いところ」を伝え合う「心の花」の活動を、毎月1回スピーチ朝会等で取り組んでいる。

表1 第1回目「学校楽しいーと」結果(A児)  
令和3年5月25日(火)実施

観 点	得 点(1回目)
友達との関係	16
教師との関係	16
学習意欲	16
自己肯定感	16
心身の状態	14
学級集団における適応感	16

表3 第1回目「学校楽しいーと」結果(B児)  
令和3年5月25日(火)実施

観 点	得 点(1回目)
友達との関係	16
教師との関係	16
学習意欲	16
自己肯定感	15
心身の状態	16
学級集団における適応感	16

表2 事前「M. Rosenberg 自尊感情尺度」結果(A児)  
令和3年5月20日(木)実施

質 問 項 目	得 点
1:いいえ 2:どちらかといえばいいえ 3:どちらかといえばはい 4:はい	
1. 私は自分に満足している。	3
2. 私は自分がだめな人間だと思う。	1
3. 私は自分には見どころがあると思う。	3
4. 私は、たいいていのがやれる程度には物事ができる。	3
5. 私には得意に思うことがない。(R)	1
6. 私は自分が役立たずだと感じる。(R)	1
7. 私は自分が、少なくとも他人と同じくらいの価値のある人間だと思う。	3
8. もう少し自分を尊敬できたらと思う。(R)	3
9. 自分を失敗者だと思いがちである。(R)	1
10. 私は自分に対して、前向きな態度をとっている。	3

表4 事前「M. Rosenberg 自尊感情尺度」結果(B児)  
令和3年5月20日(木)実施

質 問 項 目	得 点
1:いいえ 2:どちらかといえばいいえ 3:どちらかといえばはい 4:はい	
1. 私は自分に満足している。	2
2. 私は自分がだめな人間だと思う。	1
3. 私は自分には見どころがあると思う。	3
4. 私は、たいいていのがやれる程度には物事ができる。	3
5. 私には得意に思うことがない。(R)	1
6. 私は自分が役立たずだと感じる。(R)	1
7. 私は自分が、少なくとも他人と同じくらいの価値のある人間だと思う。	3
8. もう少し自分を尊敬できたらと思う。(R)	4
9. 自分を失敗者だと思いがちである。(R)	3
10. 私は自分に対して、前向きな態度をとっている。	4

本研究を実践していくにあたって、実態把握と本研究を検証するために、毎年2回実施されている「学校楽しいーと」と、自己肯定感を測定する際に最も多く用いられている「M. Rosenberg 自尊感情尺度」(桜井〈2000〉)の日本語訳を用いた。

本学級は、小学2年生が1名、小学3年生1名の計2名が在籍する複式学級である。表1及び表3は、第1回目「学校楽しいーと」のA児とB児の結果である。この結果から、どの観点においても得点が高く自己肯定感に関する質問項目においても16点である。しかし、表2及び表4を見ると、「私は自分に満足している」の質問項目に対して、「どちらかと言えばいいえ」「どちらかと言えばはい」と回答している。また、「もう少し自分を尊敬できたらと思う」の質問項目に対して「どちらかと言えばはい」「はい」と回答している。この結果は、子供たちが、自分のことをあまりよくないと感じ自信をもつことができていないということを示しており、子供たちには、ありのままの自分の存在価値を認め、さらに自信をもって1年間を過ごしてほしいという思いを強く抱いた。普段の関わりの中でも、本学級の児童は、昨年度も同じクラスで学校生活を過ごしていたことから、お互いのことをよく知り仲が良く、何事も2人で協力しながら取り組む姿が多く見られる。学習においては、授業開始前に学習用具をそろえたり提示された問題を自ら進んで解いたりするなど、意欲的に取り組む姿が見られた。しかし、問題の答えや自分の考えを発表する場面になると、自ら進んで手を挙げるのが難しかったり、お互いに考えを交流し合う場面においても、活発な交流活動ができなかったりする姿が多く見られた。また、あいさつや返事にも元気が欠けているように感じた。これは、新年度が始まって教職員や児童生徒の転出入に伴い、心身共に不安で緊張しているということも想定したが、自分のことをよく思っていなかったり成功体験の積み重ねが足りなかったりす

ることから、自信が欠如しているのではないかと感じた。

このような実態から、子供たちに「毎日の学校生活が楽しい」と感じてもらうことを前提に、「自分は成長することができている」「ありのままの自分でいい」と実感し、さらに自信をもってほしいと考えた。これからの未来を担う子供たちにとって、自己肯定感を育むことは不可欠であり粗放してはならないと考える。これらのことから、子供の自己肯定感を育むことに寄与する学級経営の在り方に関する研究及び実践をしていきたいと考えた。

#### (4) 本校の研究との関連から

先述したように、今日的課題や社会的要請と教育の動向及び本校の実態を鑑み、本年度の学校教育目標を、「豊かな心と高い志をもち、自ら学び、自分らしくたくましく生きる児童生徒を育成する」と定めている。そして、これまでの研究で明らかとなった成果や課題を踏まえて、本校では「主体的・対話的に学び、深めた思考を表現できる児童生徒の育成～個に応じた指導と自他を認め合う指導の充実～」を研究テーマとし、全教職員が日々の教育実践に取り組んでいる。本校の研究テーマには、自己肯定感の向上が根幹にあることから、本校の研究テーマと関連させた研究を行い、平島で生活している児童生徒の自己肯定感を育むよりよい手立てを検討したいと考えた。

#### (5) 本研究のねらいと仮説

本研究では、子供の自己肯定感を育むために、「日常における言葉かけ」と「自他尊重を大切にした活動」に焦点を当てた取り組みを通して、自己肯定感を育むための学級経営の在り方について検討することを主たるねらいとする。

##### 【研究仮説①】

子供たちと関わる際に、日常における言葉かけにおいて、「意味付け」や「価値付け」を用いた学級経営を行うことで、子供の所属感を実感させることにつながり、自己肯定感を育むことができるであろう。

仮説①においては、教師として子供と関わる際に不可欠な人権に配慮した言葉かけや「Mom」を基本姿勢とした関わりを基に、子供たちへの言葉かけにおいて、単に受容したり肯定したりするだけでなく、「意味付け」や「価値付け」を意識した言葉かけを通じた児童理解や学級経営を行う。そうすることが、子供たちの自己肯定感を育むことにつながるよう実践していく。

##### 【仮説②】

各教科における学習活動のみならず、教育活動全体の中で振り返りを通して自己を認める活動と、周りの人から認められる活動を意図的・計画的に取り入れることで、自分のことを積極的に評価し、自らの価値や存在意義を肯定する感情が芽生えることにつながるであろう。

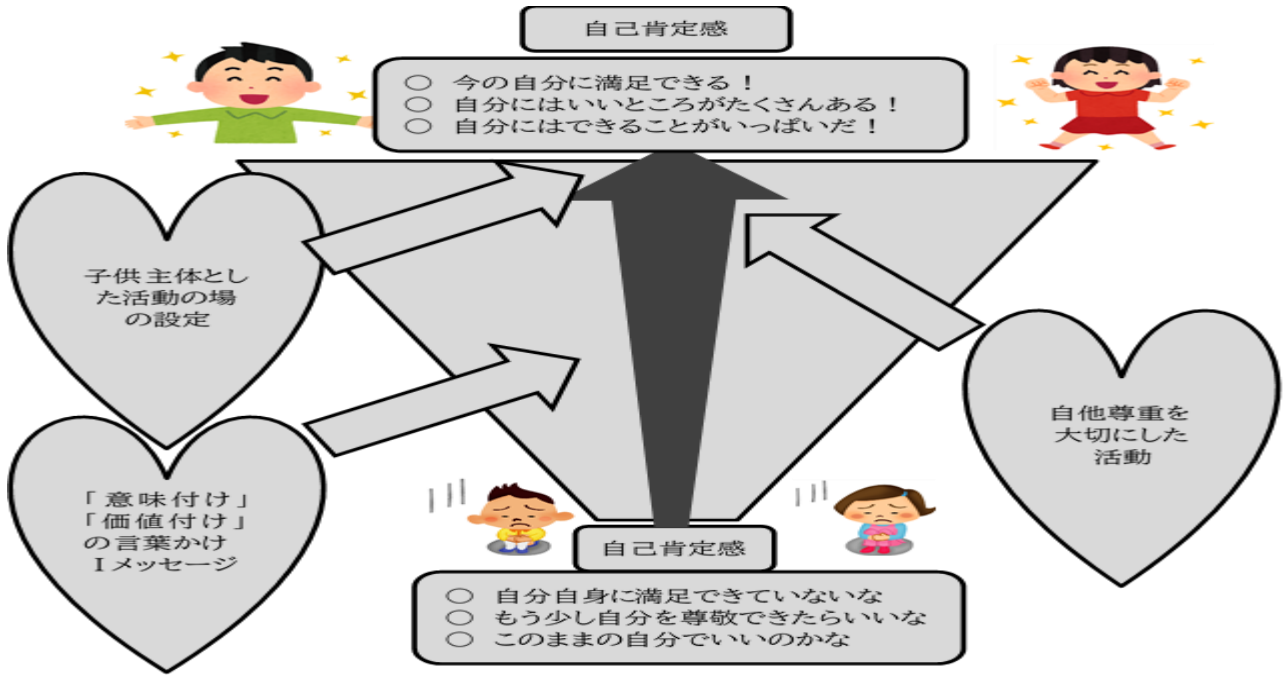
仮説②においては、学習活動だけでなく、帰りの会で行う「ほめ言葉のシャワー」や学校行事の振り返り、なりたい自分・クラスを描いた目標を基にした「成長」を振り返る機会を設け、互いのことを認め合える風土を基盤にした学級経営を進めていく。

##### 【仮説③】

発達段階を鑑みながら、子供たちが主体となって活動を行う場を設けることで、成功体験を積み重ねることにつながり、自分に満足する感情やよりよく成長しようとする向上心が生まれ、根拠のない自信ではなく、実感を伴った自信や主体性を育むことができるであろう。

仮説③においては、学習活動の中で、自らめあてやまとめを定めたり学校行事や学級オリジナルのイベントなどの機会の中で、子供たちが立案・計画したりする場面を設け、教師主導だけではなく子供たち自らが主体となれる場の中で、自ら考える力や主体的に行動できる力を身に付けさせ、確固たる自己肯定感を育むことができるように実践を進めていく。

(6) 研究構想図



3 研究の実際

(1) 【仮説①】の検証

ア 子供の所属感を実感させて、自己肯定感を育むための手立て

(ア) 日常の言葉かけにおける「意味付け」や「価値付け」の例

タイミング	主なねらいと言葉かけの実際	
登校時	○朝のあいさつは、人と人とのコミュニケーションの始まりであるのと同時に、子供の様子を見ることが出来る機会である。そのため、あいさつをした時の声のトーンや大きさ、表情を見つめて少しでもいつもと違うと感じた際には、「体調が悪い？」「朝、お家か学校に来る時に何かあった？」等の言葉かけをする。明るく元気なあいさつができていた際には、単に「おはようございます！」と返すのではなく、「 <u>おはようございます！〇〇さんから元気をもらえて、明るい気持ちになれるあいさつですね！</u> 」と、子供のあいさつに対して価値付ける言葉かけをする。	
宿題チェック	○本学級では、毎朝登校してからすぐに提出物を出す習慣を身に付けている。提出物を確認する際に、字が乱雑になっていないか、プリント類が激しく曲がったりしわがよったりしていないか見つける。一生懸命頑張っていた際には、「 <u>いつもより時間をかけて頑張った姿が字に表れているよ！済ませるための宿題ではなくて、自分のためになる宿題ですね！素晴らしい！</u> 」と、毎日取り組む宿題の意味を見いだす言葉かけをする。子供たちは、それぞれ事情がある中で、基礎的・基本的な学力を身に付けるために一生懸命になって宿題に取り組むのである。そのため、できていないところを指摘するだけでは意欲は保てないと考えている。	
朝の会	○前日もしくは子供たちが登校する前に、毎日欠かさず教室環境を整えて「黒板便り」を書いている。「黒板便り」には、前日の子供たちの頑張りの姿や当日の行事等に向けて意欲をもたせる内容を書いている。朝の会の「先生からの話」では、「黒板便り」に書いていることを子供たちに話している。この時間で大切にしていることは、 <u>前日に学級で問題があった際にはそのことについて再度掘り下げるのではなく、「前の日の子供たちの頑張りを認め、この一日をどのように過ごせば、新たな自分へと成長することができるのか</u> 」を話すように心がけている。	<p>おはようございます。</p> <p>今日は、いよいよよじきゅう走大会本番！</p> <p>○ これまでのがんばりを信じよう</p> <p>○ 最後まであきらめず、自分自身に勝とう</p> <p>○ 「自分自身はできる」と言い聞かせよう</p> <p>○ こっぴかいしないようにしよう</p> <p>ファイトだ、二・三年生！</p> <p style="text-align: right;">黒板だよりの例</p>

授業	○次の学習に向けての準備の様子や、子供たちが学習に取り組んでいる姿の細部にまで目を配るようにしている。その中で、学習準備が整っていたら「 <u>次の学習の準備がしっかりできて、見通しをもっていますね!</u> 」と言葉かけをする。授業の中では、「 <u>前にできなかった問題を間違えることなく解くことができていますね!やればできるということを証明しましたね!</u> 」や「 <u>先生が予想していたことを大きく上回る考えですね!〇〇さんは、これまで学習してきたことを見直しながらじっくりと考えていますね!素晴らしい!</u> 」等の言葉かけをしている。学習の時間において、特に子供たちは不安に思う瞬間が多い。そのため、頑張りを認めたりほめたりすることを心がけている。また、できなかったことや分からない表情をしていた際には、絶対子供のことを責めないことは教師として鉄則であると考えている。時として、子供に「分かりづらい説明でしたね。もう一度説明しますね。」と省みる言葉かけをするように心がけている。
係活動・日直	○係活動に取り組んでいる際には、「 <u>自分に任されている役割に責任感をもって取り組むことができていますね!</u> 」や「 <u>自分の力で学級を支えようとしている姿、とても輝いていますね!</u> 」等の言葉かけをしている。日直や係活動などにおいては、教師が「取り組んで当たり前」と思っていると、子供たちは任されている役割に対して、マンネリ化したり責任感をもって取り組むことができなくなったりする。安心して役割に取り組んだり「自分の行動は正しい」という思いを抱くためにも、係活動や日直に取り組んでいる際の様子は丁寧に見取る必要がある。
帰りの会	○「先生の話」の時間の中で、毎日その日の子供たちの姿について振り返りをするように心がけている。この時間は、「一日の学校生活の中で、一人一人の子供たちの姿をどれだけ見取ることができていたか」が大切になってくる。つまり、丁寧に子供たちのことを観察できていなかったら、子供たちの心に届かない振り返りとなるのである。「 <u>〇〇さんは、昨日話していたことをたった一日で行動に表していましたね!自分の言ったことを行動にできるその力は〇〇さんの武器ですね!</u> 」や「 <u>〇〇さんは、掃除を黙々と自分一人で時間いっぱい取り組んでいましたね!自分にできることを自分で見つけて取り組む姿、とてもよかったです!</u> 」等、短く端的に話すように心がけている。

## (2)【仮説②】の検証

ア 意図的・計画的に取り入れた、自己を認める活動と周りの人から認められる活動

### (ア) 帰りの会で行っている「ほめ言葉のシャワー」

自己を認めることと周りの人から認められる活動として、帰りの会で「ほめ言葉のシャワー」を行っている。1学期までは、お互いの1日の姿から頑張っていたことやよかったところを認めることを重点的に行った。はじめは恥ずかしそうにしていたが、徐々に恥ずかしさが薄れていき、相手のことを活発に認めたりほめたりするようになった。毎日継続して実践したことで、相手のことをよく観察できるようになった。

2学期からは、相手のことを認めることに加えて、「自分自身自身のよかったところ・頑張ったこと」を話すようにした。「ほめ言葉のシャワー」を実践していくにあたって、相手の頑張っていたことやよかったことに関する事実を話すだけでなく、その事実からどのようなことを感じたかを伝えることを大切にした。(例えば、今日〇〇さんは、掃除の時間に誰とも話をすることなく黙々と一生懸命掃除を頑張っていました。〇〇さんは、目の前のことに集中することができ、ぼくも〇〇さんのようになりたいと思いました。)



写真1 「ほめ言葉のシャワー」の実際

### (イ) 学校行事や毎学期・毎月を振り返る活動「自分・クラスの成長を見つめる」

学校行事に向けて取り組む際に、必ず目標を定めるようにしている。学校行事を終えた後に、自分自身やクラスがどのように成長することができたか振り返る時間を設定している。これは、学校行事を単に楽しむのではなく、充実した学校行事にするということと、教師が認めたり子供同士で認めたりする活動を通して「目標を達成することができた」「このままの自分でいい」と実感できるようにした。また、毎学期・毎月を振り返る際にも、一人一人の目標に向かって

どうだったか自分自身で肯定的に捉えたり、子供同士で成長を認め合ったりするようにした。  
 (ウ) 小学校2年生道徳科「いいところ みいつけた(日本文教出版)」の授業実践

＜指導の実際＞ 令和3年12月2日(木) 実践

学習過程 時間(分)	主な学習活動と内容	具体的支援・指導上の留意事項 (◎評価の観点)
導入 5	1 事前アンケートの結果を踏まえて、本時のめあてをつかむ。 ・自分にはいいところがあると思いますか? →文字をきれいにしている ・係活動に進んで取り組む ・成長している	○学習を方向付けるために、自分のいいところについて問うた事前アンケートの結果を提示する。 <u>「自分や友達には、どんなよさがあるのかな？」</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">自分や友達には、どんなよさがあるのだろう。</div>
展開前段 15	2 資料名「いいところ みいつけた」を読んで、りえさんの立場になって気持ちを考える。 (1) りえさんはどんな子供か考える。 ・運動が得意じゃない子供 ・おとなしい性格の子供 ・弟のことをうらやましいと思っている (2) しょうたくんは、本当のことを分かっただけで、どんな気持ちになっているか考える。 ・なぜ分かっただけで、悲しい気持ち ・優しくしたことを後悔している ・しょうたくんは、本当のことを分かっただけで、思っている (3) 先生の言葉を聞いて、りえさんはどんな気持ちになったか考える。 ・先生に、自分のことをほめてもらうことができうれしかった ・今まで、自分のいいところは何か分かっていなかったけれど、先生は私のいいところを分かってくれていた	○りえさんの立場になって気持ちを考えることができるように、キーワードとなる文に線を引いたり板書上に短冊を貼ったりする。 ○りえさんは、この段階では自分にはいいところがあることに気付いていないことを確認する。 ○しょうたくんや周りにいる人たちの反応を捉え、りえさんが1年生に優しくしたりお世話をしたりしていたことには気づいていないことを確認する。 ○りえさんの立場になって、自分が同じような状況になったら、どのような気持ちになるか考えさせる。 ○先生に自分の行った行動を認められたことで、りえさんはどのような気持ちになったか考えさせる。 ○「とってもうれしい」と記していることに注目させ、周りの人からほめられることでどんな気持ちになるか捉えさせる。
展開後段 20	3 ハートに友達のいいところを書き、交流する活動を通して、自分のいいところに気付く。 ・毎日元気なあいさつができる ・難しいことでも、いろいろなことにチャレンジしていてすごい ・やるべきことを優先している ・忘れ物がなく、準備が完璧にできる	○これまで、互いに頑張ってきたことや、支え合って成長し続けてきたことを想起させて、友達のいい所を見つけやすくする。 ○考えることが難しそうな場合には、学校行事や普段の教室での姿などを撮った写真を提示し、想起しやすいようにする。
終末 5	4 校長先生や教頭先生、小学部の先生方から子供たちのよさについて書かれたメッセージを紹介する。 ・最後まであきらめずに頑張りが続けますね ・時間を見てテキパキ行動することができますね 5 ワークシートに今日の学習を通して感じたことや考えたことを書き、全体の場で交流する。 6 授業者の話を聞く。	○授業者や子供同士の交流だけでなく、事前に校長先生や教頭先生、同じ小学部の先生に協力してもらい、子供たちのいいところメッセージを書いてもらう。 ○一つ一つのメッセージを丁寧に読み、子供たちの中で自分のいいところが実感できるようにする。 ○今日の授業を通して、自分のいいところを知ったことでどのような気持ちになったか問う。 ◎本時で学んだことを振り返り、自分のいいところを知ったことへの思いと、これからの実生活にどのように活かしていくか考えている。(発言・ワークシート)





写真2 いいところを伝え合う場面



写真3 道徳科 授業実践の板書

本授業実践を通して、普段の生活の中で「ほめ言葉のシャワー」を中心に、自他を認め合う活動を積極的に行ってきたが、道徳科の授業を通して、自分のいいところを見つめ直したり周りの人から認めってもらったりすることで、とても喜んでいました。また、級友や学級担任だけでなく、子供たちと関わりのある先生方に自己を認められたことで、自分のいいところを再認識したり、自分自身を肯定的に捉えたりすることができていた。自分のいいところを常に意識化でき

大島先生や、西原先生など  
くさんの先生方からほめ言葉  
そしていい所を紙に書いてくれたの  
でとてもうれしかったです  
次は、あたしや他の人のいい所を  
見つけて言ったりして、みんなの  
気持ちをうれしくしたいと思います  
また、みんなの手つたいをしてリ  
さんのようにいろいろなお世話や手  
つたいをしたいので先生たちの言動  
とてもうれしかったです

ちたうこつてうたうけました  
あたしからいってあげたい  
ほめ言葉のシャワー  
みんなのいいところを  
かたがたさんへ  
あたしは、いってあげたい  
みんなからほめ  
言葉のシャワー  
あたしは、いってあげたい  
みんなからほめ  
言葉のシャワー

写真4 道徳科授業実践後の子供たちの振り返りと感想の記述内容

るように、ハート形の画用紙に書かれた内容と先生方に書いてもらったメッセージは教室内に掲示している。

(3)【仮説③】の検証

ア 成功体験を積み重ねるために、子供たちが主体となって活動を行う場の設定について

(ア) 学習で、めあてとまとめを子供自らが設定することができるための手立て

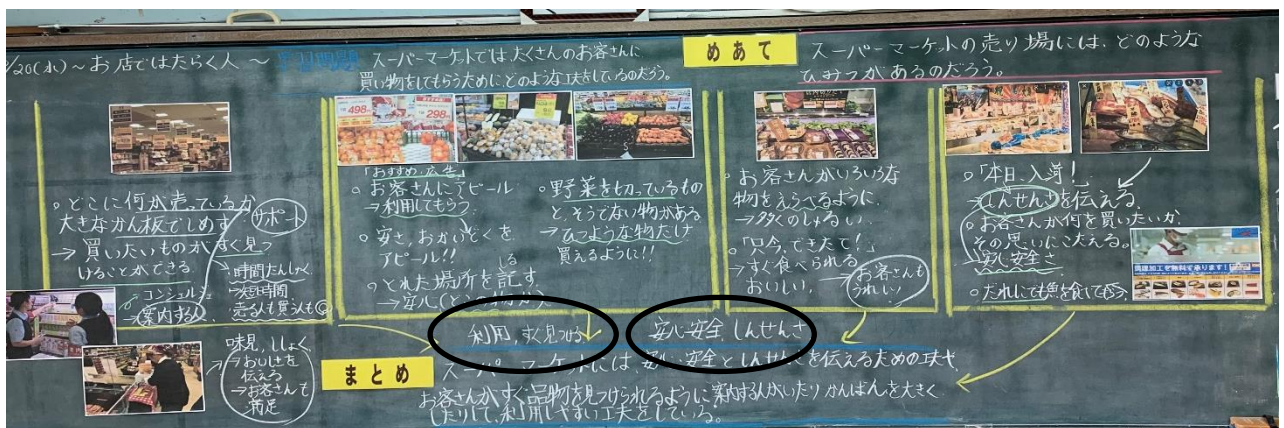


写真5 社会科「お店ではたらく人々」板書

めあてを立てる際には、導入の段階でこれまでの学習の振り返りを行ったり新しい問題と出会わせ、これまでの学習との違いを見いださせたりしながら、その日の授業で解決すべきことや考えなければならないことについて明らかにするように心がけている。そして、子供たちがつぶやいた言葉を基にしながらめあてを設定している。また、まとめにおいては、その日に学んだことの中で大事なキーワードやポイントが視覚的に捉えやすくなるように構造化された板書に留意している。また、まとめにつながりそうな言葉に色や印を付けたり、矢印を引いたりするようにしている。ま

めを書く際には、はじめに子供たちにノートやワークシートに書かせるようにしている。書き終えたら、子供たちに発表させ、子供たちなりに考えた言葉を板書(黒丸箇所)して、その言葉を用いながらまとめを書いている。また、「そのまとめは今日の学習に最適なまとめですね！今日学習したことがしっかりと自分のものになっていますね！〇〇さんのまとめをそのまま書きます」と話し、子供たちの考えたまとめをそのまま板書している。そうすることにより、子供たちは自分の考えたことが授業内容と合致していることに喜びを感じ、授業者の主観ではあるが、学習活動の中で成功体験を重ねることで学習意欲の向上にもつながることができていると感じている。

#### (イ) 学校行事や学級オリジナルのイベントを計画・立案する取り組み

今年度の学習発表会において、どのような学習発表会の内容にしたいか子供たちの思いを問うた。もちろん、全てのことを子供たちだけで進めるのではなく「子供たちの思いを汲み取りながら展開していく」ことを大切にしたい。そうすることで、子供たちは、「どんな準備が必要なのか」「どの時間にどの練習をしなければならないか」「学習発表会を成功するためには、足りない部分はどこか」を、子供たち同士で話し合い協力しながら進めていた。

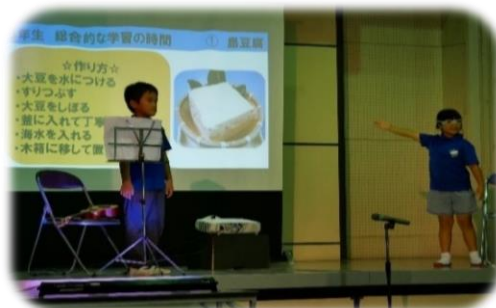


写真6 学習発表会の様子

学習発表会当日は、これまでの練習の成果を全て発揮することができ、子供たちはやりきった様子であった。また、保護者や地域の方々からも賞賛のお声を頂き、「自分たちには、やりきれぬ力があるんだ」と実感できた貴重な瞬間であった。学級オリジナルのイベントも同様であり、子供たちの思いを汲み取りながら主体的に取り組む機会を意図的・計画的に取り入れることが、達成感や向上心を実感させる要因になったと考える。

## 4 研究のまとめ

### (1) 研究の成果

表5 1回目と2回目の比較「学校楽しいーと」(A児)  
令和3年10月11日(月)実施

観 点	得 点(1回目)	(2回目)
友達との関係	16	16
教師との関係	16	15
学習意欲	16	15
自己肯定感	16	15
心身の状態	14	14
学級集団における適応感	16	16

表7 1回目と2回目の比較「学校楽しいーと」(B児)  
令和3年10月11日(月)実施

観 点	得 点(1回目)	(2回目)
友達との関係	16	16
教師との関係	16	16
学習意欲	16	15
自己肯定感	15	16
心身の状態	16	15
学級集団における適応感	16	16

表6 「M. Rosenberg 自尊感情尺度」比較(A児)  
令和3年12月3日(金)実施

質 問 項 目	得 点
1: いいえ 2: どちらかといえばいいえ 3: どちらかといえばはい 4: はい	
1. 私は自分に満足している。	3 4
2. 私は自分がだめな人間だと思う。	1 1
3. 私は自分には見どころがあると思う。	3 4
4. 私は、たいていの人がやれる程度には物事ができる。	3 4
5. 私には得意に思うことがない。(R)	1 1
6. 私は自分が役立たずだと感じる。(R)	1 1
7. 私は自分が、少なくとも他人と同じくらいの価値のある人間だと思う	3 4
8. もう少し自分を尊敬できたらと思う。(R)	3 1
9. 自分を失敗者だと思いがちである。(R)	1 1
10. 私は自分に対して、前向きな態度をとっている。	3 4

表8 「M. Rosenberg 自尊感情尺度」比較(B児)  
令和3年12月3日(金)実施

質 問 項 目	得 点
1: いいえ 2: どちらかといえばいいえ 3: どちらかといえばはい 4: はい	
1. 私は自分に満足している。	2 4
2. 私は自分がだめな人間だと思う。	1 1
3. 私は自分には見どころがあると思う。	3 4
4. 私は、たいていの人がやれる程度には物事ができる。	3 3
5. 私には得意に思うことがない。(R)	1 1
6. 私は自分が役立たずだと感じる。(R)	1 1
7. 私は自分が、少なくとも他人と同じくらいの価値のある人間だと思う	3 4
8. もう少し自分を尊敬できたらと思う。(R)	4 1
9. 自分を失敗者だと思いがちである。(R)	3 2
10. 私は自分に対して、前向きな態度をとっている。	4 4

### 【「M. Rosenberg 自尊感情尺度」事後アンケート時の子供の記述の一部】

A児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算を5のだんをおぼえたら、先生と〇〇さんにほめてもらったからがんばれた</li> <li>・自分のいいところをみんなにほめてもらったから、これからもそれをつづけようと思った</li> </ul>
B児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほめ言葉のシャワーで、いいところを見つけることができたし、みんなにほめてもらえた</li> <li>・どんどん自分でできることがふえたから ・まだまだ何でもできるようになりたい</li> </ul>

表5及び表7には、1回目と2回目の「学校楽しいーと」の結果を示している。結果を見ると、得点は16点のままで変容がない観点が多かった。自己肯定感の観点においては、A児は1ポイント減少したのに対し、B児は1ポイント上昇するという結果となった。表6及び表8には、「M. Rosenberg 自尊感情尺度」の事前と事後の結果を示している。結果を見ると、A児は「どちらかと言えばはい」と回答していた質問項目において「はい」と回答している。また、「もう少し自分を尊敬できたらと思う」という逆転項目において、事前は「どちらかと言えばそう思う」と回答しているのに対し、事後では「そう思わない」と回答しており、今の自分自身に満足しているということが考えられる。B児は、「自分に満足している」という質問項目において2ポイント上昇しており、A児と同じく今の自分に満足しているということが考えられる。また、「もう少し自分を尊敬できたらと思う」という質問項目においては、「そう思う」から「思わない」へと大きく変容する結果となった。記述にもあるように、みんなに自分自身のありのままを認められたり、前の自分と比べてできることが増えたりしていることから、成長していることを実感し、さらなる高みを目指そうとしていることが分かる。

- 子供たちと出会った当初は、消極的な面が目立つように感じたが、今では何事にも積極的に働きかけたり授業においても自分の意見や考えを活発に話したりする姿が多く見られるようになった。
- 自分自身のことや学級について振り返る際に、できなかった部分に注目することが多かったが、今では、自分の頑張りや友達の頑張り認めたりすることが多く、「次はもっとできる！」と前向きな気持ちで成長に向けて目標を立てながら取り組む姿が多く見られる。
- お互いを意識するあまり、相手を指摘する声かけが多かったが、互いに認め合う風土が構築され「いいね」「すごいじゃん」と、仲間を大切に作る人間関係ができ上ってきた。

## (2) 今後の課題

- 学級掲示に工夫を凝らし、子供たちが活躍する様子を掲示することで、言葉による意味付けや価値付けだけでなく、子供たちの心の記憶に残るようにすることでより実感を伴うことができたと考える。
- 保護者に向けて、学校での子供たちの様子について学級便りを中心とした発信しかできていなかったため、保護者の方からも子供のことを認める声かけができる機会をより増やすために、保護者との連携を図る必要があった。
- 子供たちが主体となって活動する姿を学校内だけに留めず、島内まで広げて島民との関わりを増やし、島民の方からも子供たちのことを認める機会を設けることで、さらに周りの人から成長や頑張り認めてもらふことにつながり、自分に満足したり向上心が芽生えたりしたのではないかと考える。
- コロナ禍でオンライン研修が充実している中、参加する機会が少なかった。自分自身の指導力を向上させたり新たな知見を得たりする機会を増やしていかなければならない。

## 5 おわりに

今回、自己肯定感を育むための学級経営の在り方について検討することを主たるねらいとして進めてきた。本研究を通して、自己肯定感を育むためだけでなく、子供たちが毎日楽しく充実した学校生活を過ごすためには、お互いに認め合う場を設定するだけでなく、学級担任との確かな信頼関係を構築することや人権に配慮した言葉かけ、さらには子供たちの様子を見る力や子供のことを理解しようとする姿勢等が大切であると改めて気付いた。子供たちが自分のありのままを認め自分に満足できるように、子供たちに教育的愛情をもって関わり、目の前にいる子供たちやこれから出会う多くの子供たちの自己肯定感を育むことができるように、学び続ける姿勢を忘れず自己研鑽に励んでいきたい。

### 【参考・引用文献】

- ・ 鹿児島県教育委員会(2020)令和2年度人権教育指導資料『仲間づくり～自尊感情を育むために～』
- ・ 中央教育審議会(2021)「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの～(答申)【概要】
- ・ 内閣府(2019)令和元年度版 子供・若者白書(全体版)
- ・ 文部科学省(2018)小学校学習指導要領解説 総則編